



心籠太鼓



特別
子12
3643
16(11)



龍舌靴

甲角

是の丸列松浦は行果てての休を了

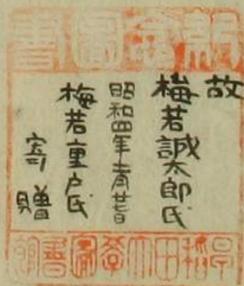
きのりなるひの閑の清次とて去地

郷をいふのと口論。念ふは歌とて討

作。去るう科人のあつて方。竜者よ

きくは彼去大剛のその心とてある。養

事あつてと対をわとあつていふに



あつ 所前者 御老犬圃乃志は
右同番乃子おつは人 長てい
おつは清次うとお龍を破りぬけ
ての 何と清次うおつは人 援さる
言語道断の 梅江家おつは人
申付てあつは人 援さる油取はりて有
そ佐助者の子おつは人 子や子おつは人

依 妻なるふり 引れはゆめ
ありつるおつは人 長てい
長てい 科人をなすおつは人
乃御罪科をゆりは 情さるは人
つは女おつは人 妻乃清次は 夜着を
破りさるぬきおつは人 援さるぬ
事乃おつは人 援さるぬ 申付て

たききよめおききよひびき事か甲角
夫れ別き蓄者男一方おぬ花
歌まに物まらぬよき物り也志あづ
何故に書らるる前よきとせむて
呼びて海に竜より出づるまを
夕に申らん 是れは骨の如く
書けおれを志らたききよひびき

書とさるる書は其の書は前よき
何れも志らぬを也やりま書
いし事ゆとまらるる籠の戸をひき
さや見よとさるる出よ 御心あり
かききよめおききよひびき事か
乃内をぬ出まは是れ社かきよ
いし事ゆとまらるる籠の戸をひき
さや見よとさるる出よ 御心あり
かききよめおききよひびき事か

余太

田口

東京 觀世清孝

梅若 實

京都 斤山晋三

浅井喜次郎

林 喜空門

茵 久右門

浅野繁之助

林田喜代造

武田藤馬

藤木保列

大江信之助

井上勝太郎

立花傳三

三宅作十郎

奥田彦重門

馬淵太右門

大坂 生一丸兵衛

大西濫一郎

橋岡忠三郎

岡田泰造

新西市兵衛

大津原 五郎

草川愛助

岩佐富三郎

伏見田中仁助

諸

東田繼崎 堀井 吳三郎
松本善助
越後高岡 清水庄平
近江長濱 吉田作平
伊豆松濱 玉井新次郎

國

東海三河 村上 勘兵衛
四條 大谷 勘兵衛
三條寺町 杉本甚助

弘

日川原町 福井源次郎
五條高倉 澤田友五郎
花面 櫻永田調兵衛

所

寺町 素藤井 佐兵衛
日綿小路 山田茂助
日佛小路 北川甚七

書

古門前 澤田 吉右門

肆

